



FEther II CB-TXD

取扱説明書

<http://www.corega.co.jp/>

1

2

3

4

5

6

7

付

安全のために



必ずお守りください

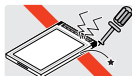


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

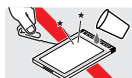
感電の原因となります。



雷のときは
さわらない

異物はいれない 水は禁物

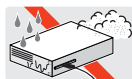
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所
注意



注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると、火傷の恐れがあります。



高温注意

運搬時の注意

本製品をコンピューターのPCカードスロットに装着したままでコンピューターを運搬するときには必ずケーブルを外してください。



ケーブルを
外せ

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80% 以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュタンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品・ケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り付け・取り外しのときの注意

コンピューターのPCカードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ず本取扱説明書及び、ご使用のコンピューターの取扱説明書を参照の上正しく行ってください。



長期保管時は袋に入れて

本製品を長期にわたって保管する場合は、必ず添付の袋（静電防止）または専用ケースに入れてください。



取り扱いはいないに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る
不可

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー類
不可

はじめに

この度は、「corega FEther II CB-TXD」LAN PCカードをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

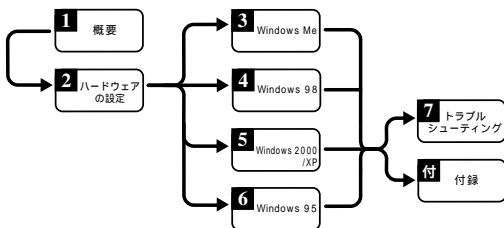
内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- corega FEther II CB-TXD本体
- ドライブディスク（CD-ROM, 1枚）
- 取扱説明書 / 保証書（本書）
- シリアル番号シール
- 専用ケース

この取扱説明書の構成

この取扱説明書は、次図のような構成になっています。ドライバのインストール手順などは、オペレーティングシステム（OS）ごとに分けて記述していますが、その他の項目は、共通の記述になっているところもあります。ご使用のOSに応じて、図のように読み進んでください。



ドライブ名「A:」「C:」「D:」

本書では、ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピューターでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピューターにおけるものと読み替えてください。

- 「フロッピーディスクドライブ」として「A:」
- 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」
- 「CD-ROMドライブ」として「D:」

目次

はじめに.....	4
内容物をご確認ください	4
この取扱説明書の構成	4
ドライブ名「A:」「C:」「D:」	4
1 概要.....	7
1.1 特長	7
1.2 対応コンピューター機種	7
1.3 対応オペレーティングシステム	7
1.4 各部の名称と働き	8
1.5 ドライバディスク	9
2 ハードウェアの設定.....	10
2.1 PC カードの挿入・取り外し	10
2.1.1 PC カードの挿入	10
2.1.2 PC カードの取り外し	11
2.2 ネットワークへの接続	12
3 Windows Me.....	14
3.1 ドライバのインストール	14
3.1.1 用意するもの	14
3.1.2 アップデートインストール	14
3.1.3 新規インストール	14
3.2 インストールの確認とアダプターの設定 (Windows 98/Me 共通)	17
3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認	17
3.2.2 ネットワークの設定	20
3.2.3 本製品の詳細設定	20
3.3 ドライバの更新 (Windows 98/Me 共通)	22
3.4 ドライバの削除 (Windows 98/Me 共通)	26
3.5 ドライバの再インストール	27
4 Windows 98.....	28
4.1 ドライバのインストール	28
4.1.1 用意するもの	28
4.1.2 新規インストール	28
4.2 インストールの確認とアダプターの設定	33
4.2.1 電源管理の設定について (Windows 98 Second Edition のみ)	33
4.3 ドライバの更新	33
4.4 ドライバの削除	34
4.5 ドライバの再インストール	34

5	Windows 2000/XP	35
5.1	ドライバのインストール	35
5.1.1	用意するもの	35
5.1.2	アップデートインストール	35
5.1.3	ドライバの新規インストール	36
5.2	インストールの確認とアダプターの設定	41
5.2.1	デバイスマネージャによるインストールの確認	41
5.2.2	ネットワークの設定	44
5.2.3	本製品の詳細設定	46
5.3	ドライバの更新	47
5.3.1	ドライバのロールバック	49
5.4	ドライバの削除	50
5.5	本製品を一時的に使用しないとき	51
5.6	ドライバの再インストール	52
6	Windows 95 (Version Bまたは C).....	53
6.1	ドライバのインストール	53
6.1.1	Windows 95 のバージョン確認	53
6.1.2	用意するもの	54
6.1.3	ドライバの新規インストール	54
6.2	インストールの確認とアダプターの設定	59
6.2.1	デバイスマネージャによるインストールの確認	59
6.2.2	PC カード (PCMCIA) による確認	62
6.2.3	ネットワークの設定	62
6.2.4	本製品の詳細設定	63
6.3	ドライバの削除	64
6.4	ドライバの再インストール	66
7	トラブルシューティング.....	67
7.1	ドライバのトラブル	67
7.1.1	本製品を認識しない	67
7.1.2	デバイスマネージャで「 x 」が付く	68
7.1.3	PCMCIA コントローラが正しく表示されない	69
7.2	ネットワークのトラブル	70
7.2.1	LINK LED は点灯していますか？	70
7.2.2	LINK LED は点灯しているが...	71
7.2.3	Auto-Negotiation 機能	71
付録	72
A	Windows 95/98 のネットワークの設定例	72
B	製品仕様	84
C	ネットワークインターフェース	85
D	MAC アドレス	86
E	保証と修理について	87
F	ユーザーサポート	88

1 概要

1.1 特長

corega FEther II CB-TXD (以下、本製品と表記) は以下の特長をもつ PC カード型 LAN アダプターです。

- CardBus (32bit インターフェース) による高速データ転送
 - 100Mbps (100BASE-TX) および 10Mbps (10BASE-T) の2つの通信速度に対応
 - オートネゴシエーションによる 100Mbps/10Mbps、全二重 / 半二重の自動設定
 - 通信状態を表示する2つの LED
 - メディアケーブル (コネクタ部) とカード部が一体化
 - Plug & Play に対応 (注)
- (注) ただし、本製品に付属のドライバのインストールが必要です。

1.2 対応コンピューター機種

本製品は、PC Card Standard CardBus 対応 PC カードスロットを持つ次のコンピューター機種に対応しています。

- AT 互換機および NEC PC98-NX



注意

コンピューターの機種によっては、レジューム/サスペンドあるいはスタンバイ機能を使用したときに、本製品の動作が不安定になる可能性があります。そのときは、これらの機能を無効にしてください。

1.3 対応オペレーティングシステム

本製品は、次のオペレーティングシステム (OS) に対応しています。

- Windows Me
- Windows 98 (Windows 98 SE を含む)
- Windows 2000
- Windows XP Professional (32bit)/Home Edition
- Windows 95 (Version B 以降のもの) ¹

1. Windows 95 のバージョンは、「コントロールパネル」 「システム」 「情報」で確認することができます。Version B と呼ばれるものでは「4.00.950 B」と表示されています。Version B は、「OSR 2」(OEM Service Release 2) や「Type B」と呼ばれることもあります。「4.00.950」や「4.00.950a」と表示されている場合、本製品はご使用になれません。

1.4 各部の名称と働き

図 1.4-1 ~ 図 1.4-2 をもとに各部の名称と働きを説明します。

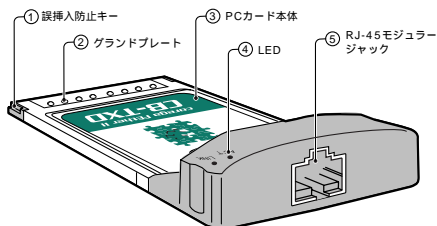


図 1.4-1 FEther II CB-TXD 外觀図 (上面)

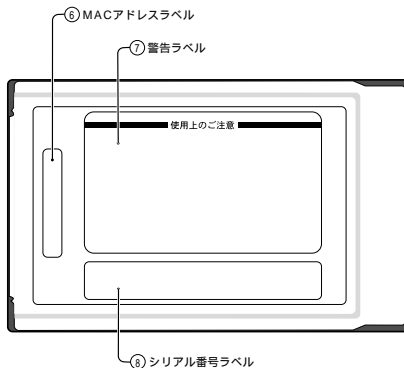


図 1.4-2 FEther II CB-TXD 外觀図 (裏面)

誤挿入防止キー

CardBusに対応していないコンピューター機種のPCカードスロットに挿入してしまうことを防ぐキーです。

グランドプレート

コンピューターとの接触抵抗を下げ、高速なデータ転送を実現する接点です。グランドプレート部分は、手や金属でふれたり、汚したりしないようご注意ください。

PC カード本体

コンピューターのPCカードスロットに挿入し、LANアダプターの機能を提供します。

LED

次の2つのLEDがあります。

LINK/ACT (緑): リンクが確立すると点灯し、パケット送受信時に点滅します。

100M (緑): 100Mbps で通信が行われているときに点灯し、10Mbps で通信が行われているときは消灯します。

RJ-45 モジュージャック

UTP ケーブル (シールドなしツイストペアケーブル) を接続するコネクタです。

MAC アドレスラベル

本製品のMACアドレスが記入されています。MACアドレスについては、「付録D MACアドレス」をご覧ください。

警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号 (製造番号) とリビジョンが記入されています。同じものが、3枚ほど同梱されており、パッケージ (外箱) にも貼付されています。同梱されているシリアル番号シールは、「製品保証書」に貼付してください (残る2枚は予備です) シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

1.5 ドライブディスク

OSごとに、以下のフォルダに置かれています。

- Windows Me 用ドライバ: 「¥WME」フォルダ
- Windows 98 用ドライバ: 「¥W98」フォルダ
- Windows 2000 用ドライバ: 「¥W2K」フォルダ
- Windows XP 用ドライバ: 「¥WXP」フォルダ
- Windows 95 用ドライバ: 「¥W95」フォルダ

2 ハードウェアの設定



注意

本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電気を放電してください。この時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。

本製品の内部には、最新のIC類が使用されています。ご使用中の静電気による故障対策はされていますが、他の機器との接続時などには、特に注意してください。お客様の不注意により生じた静電気等による故障等につきましては、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。



警告

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



注意

スタンバイ状態への移行時、復帰状態への移行時に本製品やUTPケーブルの挿抜は行わないでください。また、スタンバイ状態からの復帰時、パソコンの機種によっては、本製品が正常に動作しないものがあります。スタンバイ状態への移行、復帰状態への移行につきましては、サポート対象外とさせていただきます。

2.1 PCカードの挿入・取り外し



注意

コンピューターの機種によっては、イジェクトバーなどがPCカードの挿入・取り外し操作に干渉することがありますのでご注意ください。詳細は弊社ホームページをご覧ください。

Windows Me/98/2000/XP/95 では、コンピューターの電源をオンにしたままカードの抜き差しを行うことができます。ただし、その場合いくつかの注意点があります。PCカードの挿入・取り外しを行うときは、必ず下記の手順にしたがって作業を進めてください。

2.1.1 PCカードの挿入

- 1 コンピューターの電源をオンにしてください。
- 2 「corega」のロゴが印刷された面を上にして、本製品をコンピューターのPCカードスロットに挿入し、カチッと手応えがあるまで押し込んでください。



コンピューター機種によっては、下に向けて装着するものもあります。間違っ
て装着すると、本製品やご使用のコンピューターの故障の原因になります。PC カ
ード装着に関しては、必ずご使用のコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

- 3 本製品をPCカードスロットに挿入すると、Windows Me/98/2000/XP/95はPlug
& Play 機能により本製品を自動的に検出します。¹

2.1.2 PC カードの取り外し

Windows Me/98/2000/XP/95 では、コンピューターの電源をオンにした状態で本製品を
PCカードスロットから取り外すことができます。ただし、コンピューターの電源がオンの
状態で本製品を取り外すときは、必ず以下の手順で行ってください。ここでは、Windows
98の画面を使って説明しています。



以下の手順を守らなかつたときは、コンピューターのハングアップやファイル
の破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こ
った障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

- 1 ネットワークと通信を行っているアプリケーション、例えば Telnetやデータベース
アプリケーションなどをすべて終了してください。「ネットワークドライブの割り
当て」を行っている場合は、すべて切断してください。
- 2 タスクバーのPCカードアイコン（通常デスクトップ右下）をダブルクリックしま
す。



図 2.1.2-1 PC カードアイコン

1. 本製品用のドライバのインストールをまだ行っていないとき（初めて本製品を挿入し
たとき）は、「PC カードウィザード」またはドライバのインストールが開始されます。
詳細は各 OS のインストールの章をご覧ください。

- 3 取り外したいデバイスを選択し、「停止」¹をクリックします。

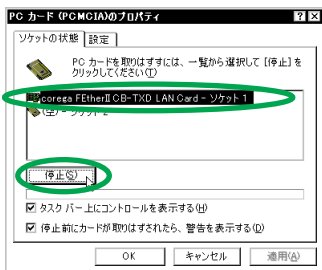


図 2.1.2-2 corega FEther II CB-TXD LAN Card 選択

- 4 「OK」をクリックします。



図 2.1.2-3 取りはずし確認

- 5 コンピューターのPCカード取りはずしボタンを押してください。本製品は、PCカードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

2.2 ネットワークへの接続

ネットワークに接続するときのケーブルの取り扱いについて説明します。



警告

稲妻が発生しているときは、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

- 1 UTPケーブルの一方の端に付いたプラグを、本製品のUTPコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。両端のプラグのどちらを差し込んでかまいません。

1. Windows のバージョンによっては「終了」と表示されます。



注意

UTP ケーブル (シールドなしツイストペアケーブル) は、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5、10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上のストレートタイプをご使用ください。

- 2 UTP ケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。
- 3 UTP ケーブルのもう一方の端のプラグを接続先機器 (ハブやスイッチ) の UTP コネクタに差し込みます。手順は、前ページ 1、2 と同様です。
接続先機器 (ハブやスイッチ) との状態が正常であれば、本製品の LINK LED が点灯 (緑) します。LINK LED が点灯しないときは、「7.2 ネットワークのトラブル」(p.70) を参考に、ご使用の UTP ケーブル、または接続先機器を再度ご確認ください。



UTP ケーブルの RJ-45 プラグは、プラグの爪を指で押えながら手前に引くと、抜くことができます。

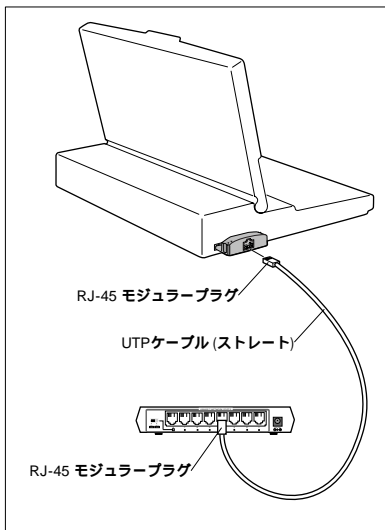


図 2.2-1 ハブとの接続例

3 Windows Me

本製品のドライバを Windows Me 上にインストールする手順を説明します。

3.1 ドライバのインストール

以下に挙げる内容は一例です。お客様の環境によっては、手順などが若干異なることがあります。

3.1.1 用意するもの

- 本製品本体
- コンピューター(CardBus 対応 PC カードスロット付き、Windows Me インストール済み)
- 本製品のドライバディスク (CD-ROM)



注意

Windows Me がコンピュータ購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されているとき(プリインストール版)は、Windows Me のバックアップ CD-ROM が付属していることをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していないときは、安全のため必ずフロッピーディスクに Windows Me のバックアップを取った後で、ドライバのインストールを始めてください。バックアップの手順については、ご使用のコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

3.1.2 アップデートインストール

Windows 98/95 から Windows Me へのアップデートインストールをする前に、本製品が Windows 98/95 上で正常に動作していることをご確認ください。Windows Me へアップグレード後、Windows 98/95 で使用していたドライバがそのまま残っています。「3.3 ドライバの更新(Windows 98/Me 共通)」(p.22)の手順を参考に、Windows Me 用のドライバに更新してください。



注意

Windows 98 からのアップグレードインストール時の更新手順でのみ、「ドライバの更新の警告」が表示されます。「選択したドライバは、現在使用しているドライバの方がハードウェアデバイスに適していると思われます。選択したドライバを使用しますか?」という問いに対して「はい」をクリックしてください。

3.1.3 新規インストール

- 1 本製品をコンピューターの PC カードスロットに取り付けていない状態でコンピューターの電源をオンにし、Windows Me を起動します。

2 コンピューターの PC カードスロットに本製品を挿入します。



注意

CardBus 非対応の PC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。CardBus 対応 PC カードでは、CardBus 非対応機種種の PC カードスロットに誤ってカードを挿入することを防ぐため、カードの形状を工夫してあります。そのため、無理に挿入しようとするとカードまたは PC カードスロットを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。

3 Windows Me が PC カードの挿入を検知します。「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」をクリックします。

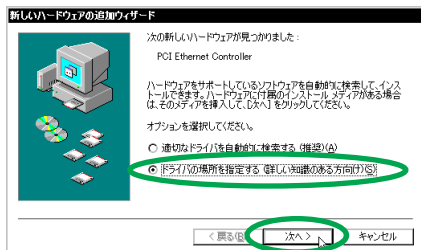


図 3.1.3-1 新しいハードウェアの追加ウィザード

4 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、「検索場所の指定」に「D:¥WME」を入力します。「リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROM など)」のチェックを外してください。本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、「次へ」をクリックしてください。

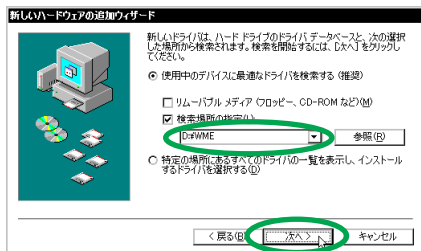


図 3.1.3-2 ドライバの検索

- 5 「デバイス用のドライバファイルの検索 : corega FEther II CB-TXD LAN Card」、
「ドライバのある場所 : D:\¥WME¥NETCOKK.INF」となっていることを確認し、「次へ」をクリックします。



図 3.1.3-3 ドライバのインストール

- 6 ドライバがコピーされます。
「新しいハードウェアのインストールが完了しました。」と表示されますので、「完了」をクリックしてください。



図 3.1.3-4 インストール完了

- 7 以上で本製品のドライバのインストールは終了です。引き続き、「3.2 インストールの確認とアダプターの設定 (Windows 98/Me 共通)」にお進みください。



注意

Windows Me では、ドライバインストール終了後にコンピューターを再起動をする必要はありませんが、お客様のご使用環境によっては再起動を求められることがあります。

3.2 インストールの確認とアダプターの設定 (Windows 98/Me 共通)

インストール完了後、ドライバが正しくインストールされていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

3.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- 1 「スタート」「設定」「コントロールパネル」を選択し、「システム」をダブルクリックします。



図 3.2.1-1 システムのプロパティ

- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」アイコン左の「+」をクリックします。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が表示されます。

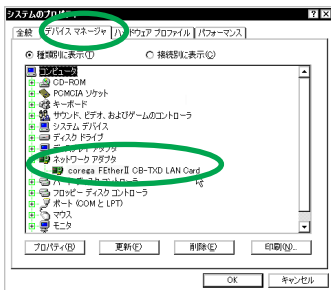


図 3.2.1-2 ネットワークアダプタ確認



注意

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていたり、アイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にあるときは、インストールに失敗しています。詳しくは、「7.1 ドライバのトラブル」(p.67)をご覧ください。

- 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックします。「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認してください。



図 3.2.1-3 デバイスの状態

- 4 本製品が使用する I/O ベースアドレス、インタラプト (IRQ) などは、Windows Me によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認できます。



図 3.2.1-4 リソースの確認

3.2.2 ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには（WWW ブラウザーなどをご使用になるためには）、TCP/IP プロトコルが必須です。詳細はシステム管理者にご確認ください。また、基本的な設定例が、付録「A Windows 95/98 のネットワークの設定例」（p.72）にありますので参考にしてください。必要な設定を終えたら、「ネットワーク」画面の「OK」をクリックします。

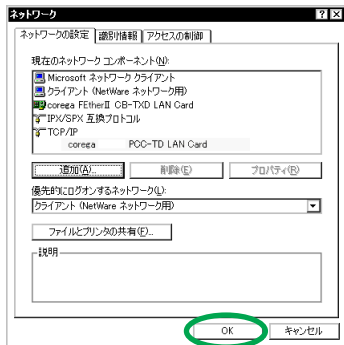


図 3.2.2-1 ネットワークのプロパティ

3.2.3 本製品の詳細設定

本製品のポート（RJ-45 モジュラージャック）は、「Auto-Negotiation」に設定されており、接続先機器との通信速度（100/10Mbps）や通信モード（Full/Half Duplex）は、本製品の Auto-Negotiation 機能によって自動的に設定されます。Auto-Negotiation をサポートしていない機器に接続した場合、Auto-Negotiation 機能が正しく働かないため、ご使用になりたい状況に合わせて以下のように設定してください。

- 1 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

- 2 「ネットワークの設定」タブの「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックし、「詳細設定」タブの「値」から適切な項目を選択してください。

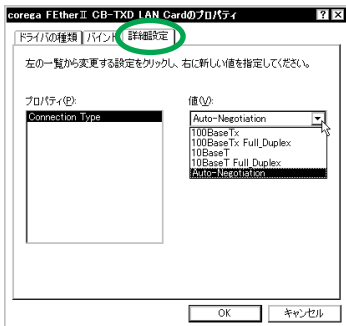


図 3.2.3-1 詳細設定

Connection Type

- Auto-Negotiation (デフォルト)

Auto-Negotiationを有効に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていれば、可能な最高の速度およびモードとなります。接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていない場合、通信速度のみを検出し、検出された速度の Half Duplex モードとなります。

- 100BaseTx
100Mbps の Half Duplex (半二重) モードに設定します。
- 100BaseTx Full_Duplex
100Mbps の Full Duplex (全二重) に設定します。
- 10BaseT
10Mbps の Half Duplex (半二重) に設定します。
- 10BaseT Full_Duplex
10Mbps の Full Duplex (全二重) に設定します。

3.3 ドライバの更新 (Windows 98/Me 共通)

弊社のホームページ (<http://www.corega.co.jp/>) などから最新のドライバを入手したときは、下記の手順にしたがってドライバを更新してください。

- 1 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします (図 3.2.1-2 参照)。
- 2 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックします。「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。



図 3.3-1 ドライバの更新

- 3 「ドライバの場所を指定する (詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」をクリックします。

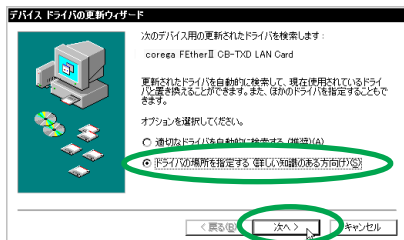


図 3.3-2 ドライバの場所指定

- 4 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」をクリックします。

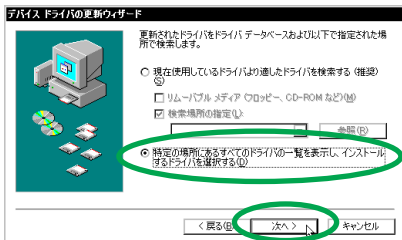


図 3.3-3 ドライバの一覧表示

- 5 「ディスク使用」をクリックします。

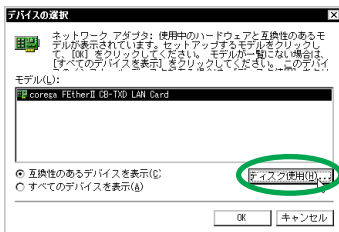


図 3.3-4 ディスク使用

- 6 本製品の最新ドライバが格納されている場所を「製造元ファイルのコピー元:」欄に入力し、「OK」をクリックします(この例では「C:¥COREGA¥FE2CBTXD¥WME」と仮定しています)。

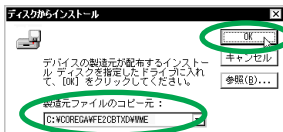


図 3.3-5 ドライバ指定

- 7 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が選択されているのを確認し、「OK」をクリックします。

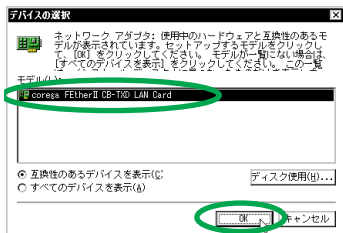


図 3.3-6 デバイスの選択

- 8 「デバイス用ドライバファイルの検索」欄に「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が、「ドライバのある場所」に「C:\COREGA\FE2CBTXD\WME\NETCOKK.INF」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。ドライバの更新が始まります。

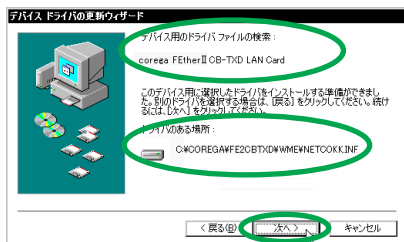


図 3.3-7 ドライバのインストール

以下の画面が表示された場合は、「ファイルのコピー元」に「C:\COREGA\FE2CBTXD\WME」と入力し、「OK」をクリックしてください。（最新ドライバの格納先が「C:\COREGA\FE2CBTXD\WME」の場合）

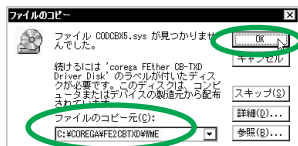


図 3.3-8 ファイルのコピー元の指定 (sys ファイル)

9 「完了」をクリックします。



図 3.3-9 インストール完了

10 コンピューターの再起動を促す画面が表示されます。「はい」をクリックし、コンピューターを再起動します。

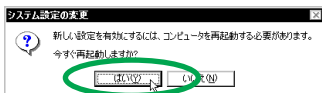


図 3.3-10 コンピューターの再起動

3.4 ドライバの削除 (Windows 98/Me 共通)

ドライバの削除は、ドライバの再インストールをする場合などに行います。ドライバのインストールに失敗した場合も、この手順にならない、間違っでインストールされたドライバを削除してから、あらためてインストール作業を行います。

- 1 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします (図 3.2.1-2 参照)。
- 2 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を選択して、「削除」をクリックしてください。

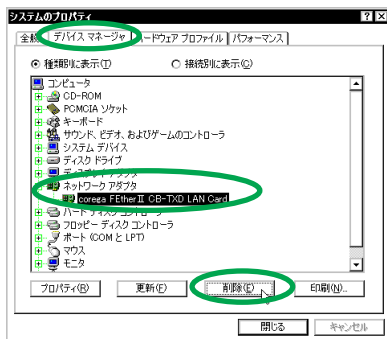


図 3.4-1 デバイスマネージャからの削除

- 3 「OK」をクリックします。

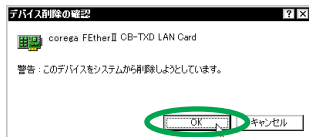


図 3.4-2 デバイス削除の確認

- 4 本製品のアイコンが消えていることを確認してください。
- 5 Windows Me をシャットダウンし、コンピューターの電源をオフにします。

- 6 コンピューターの PCカード取り外しボタンを押し、本製品を取り外してください。ドライバを再インストールするときは、PC カードを取り外さずに、コンピューターを再起動してください。

3.5 ドライバの再インストール

ドライバの再インストールを行うときは、ドライバを一旦削除してから行います。ドライバのインストールに失敗したときも、インストールされたドライバを削除してから再インストールを行います。

ドライバを再インストールする手順は以下の通りです。

- 1 「3.4 ドライバの削除 (Windows 98/Me 共通)」(p.26) の手順にしたがい、本製品のドライバを削除します。
- 2 「3.1.3 新規インストール」(p.14) の手順にしたがい、本製品のドライバをインストールします。

4 Windows 98

本製品のドライバを Windows 98 上にインストールする手順を説明します。

4.1 ドライバのインストール

以下に挙げる内容は一例です。お客様の環境によっては、手順などが若干異なることがあります。

4.1.1 用意するもの

- 本製品本体
- コンピューター（CardBus対応 PCカードスロット付き、Windows 98インストール済み）
- 本製品のドライバディスク（CD-ROM）
- Windows 98 の CD-ROM



Windows 98 が、コンピューター購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows 98 のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずフロッピーディスクに Windows 98 のバックアップを取った後でドライバのインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピューターの取扱説明書をご覧になるか、コンピューターメーカーにご確認ください。



ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

4.1.2 新規インストール

- 1 コンピューターの電源をオンにし、Windows 98 を起動してください。
- 2 コンピューターの PC カードスロットに本製品を挿入してください。



注意

CardBus 非対応の PC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。CardBus 対応 PC カードでは、CardBus 非対応機種種の PC カードスロットに誤ってカードを挿入することを防ぐため、カードの形状を工夫してあります。そのため、無理に挿入しようとするとカードまたは PC カードスロットを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。

- 3 Windows 98 は本製品が PC カードスロットに挿入されたことを自動的に検出し、次のダイアログを表示します。「次へ」をクリックしてください。

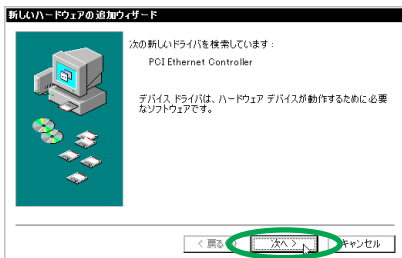


図 4.1.2-1 「新しいハードウェアの追加ウィザード」

- 4 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

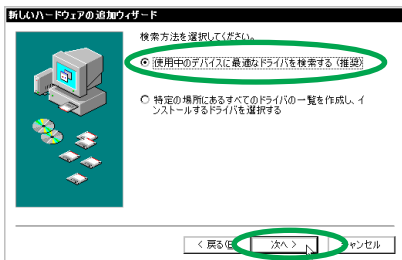


図 4.1.2-2 検索方法の選択

- 5 「検索場所の指定」に「D:¥W98」と入力します。本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、「次へ」をクリックしてください。

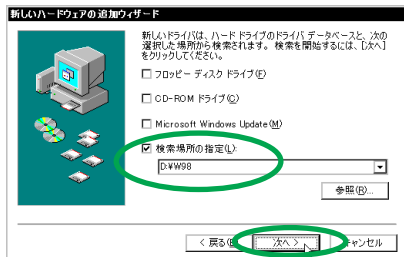


図 4.1.2-3 ドライバの場所指定

- 6 次のダイアログで、ドライバファイルの名称が「corega FEther II CB-TXD LAN Card」、
「ドライバのある場所：D:¥W98¥NETCOKK.INF」となっていることを確認し、「次へ」
をクリックしてください。

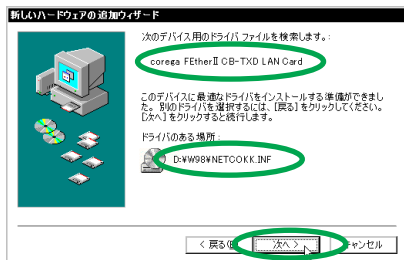


図 4.1.2-4 ドライバ名称の確認

- 7 必要なファイルのコピーが始まります。ファイルのコピー中にディスクを要求する画面が表示されたときは、次のように対処してください。

本製品のドライバディスクが要求された場合、「OK」ボタンをクリックし、本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに入れ、「D:¥W98」と入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。



注意

重要：場合によっては、「CODCBX5.sys が見つからないので Windows 98 の CD-ROM を入れてください」というようなダイアログが表示されることがあります。「CODCBX5.sys」はドライバディスクに収められているファイルです。このような場合は、「ファイルのコピー元」に「D:¥W98」を入力してください。

次のようなダイアログが表示される場合、Windows 98 の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、「OK」をクリックし、「ファイルのコピー元」に「D:¥WIN98」を入力してください。



図 4.1.2-5 Windows 98 CD-ROM の要求

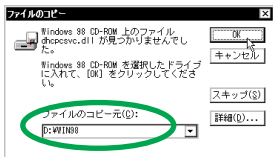


図 4.1.2-6 Windows 98 関連ファイルの所在の指定



注意

ご使用のコンピューターがブリーインストール版である場合、「ファイルのコピー元」に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を入力してください。

8 「完了」をクリックしてください。



図 4.1.2-7 インストールの完了

9 CD-ROM ドライブからドライバディスクを抜き、「はい」をクリックし、コンピュータを再起動してください。

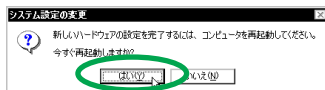


図 4.1.2-8 再起動の確認

10 以上でドライバのインストールは終了です。引き続き「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。



注意

インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。DHCP サーバーを使用していなければ、「いいえ」をクリックしてください。また、DHCP サーバーを使用している場合（例えば、ケーブルテレビを使用したインターネット接続等）は、「はい」ボタンをクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になる場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

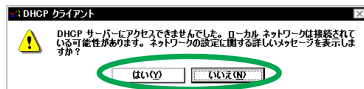


図 4.1.2-9 DHCP メッセージ

4.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。Windows 98 でのインストールの確認とアダプターの設定は、Windows Me と同様の手順で行うことができます。手順については、「3.2 インストールの確認とアダプターの設定 (Windows 98/Me 共通)」(p.17) をご覧ください。

4.2.1 電源管理の設定について (Windows 98 Second Edition のみ)

コンピューターの機種によっては、下図のような電源管理のタブが表示される場合があります。本製品をより安定してご使用していただくために、電源管理の設定を下記の手順に従って変更してください。

なお、チェックをしたままの運用については、サポート対象外とさせていただきます。

- 1 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」で「ネットワークアダプタ」の「corega FEther II CB-TXD」をダブルクリックします。
- 2 「電源の管理」タブをクリックします。

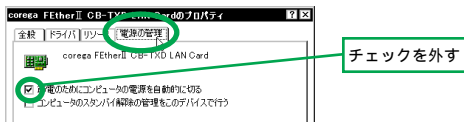


図 4.2.1-1 「電源の管理」タブ

- 3 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックを外します。

4.3 ドライバの更新

ドライバの更新は、弊社のホームページ (<http://www.corega.co.jp/>) などから、本製品用の最新のドライバを入手した場合に実行します。Windows 98 でのドライバの更新は、Windows Me と同様の手順で行うことができます。手順については、「3.3 ドライバの更新 (Windows 98/Me 共通)」(p.22) をご覧ください。

4.4 ドライバの削除

ドライバの再インストールを行う場合、ドライバを一旦削除してから行います。ドライバのインストールに失敗した場合も、間違っってインストールされたドライバを削除してから、あらためてインストール作業を行います。Windows 98 でのドライバの削除は、Windows Me と同様の手順で行うことができます。手順については、「3.4 ドライバの削除 (Windows 98/Me 共通)」(p.26)をご覧ください。

4.5 ドライバの再インストール

ドライバの再インストールを行うときは、ドライバを一旦削除してから行います。ドライバのインストールに失敗した時も、インストールされたドライバを削除してから再びインストール作業を行います。

ドライバを再インストールする手順は以下の通りです。

- 1 「3.4 ドライバの削除 (Windows 98/Me 共通)」(p.26) の手順にしたがい、本製品のドライバを削除します。
- 2 Windows 98 を再起動し、本製品をコンピューターのPCカードスロットに挿入し、「4.1.2 新規インストール」(p.28)の手順を参考に、ドライバをインストールします。本製品のドライバが自動的にインストールされてしまう場合には、「3.3 ドライバの更新 (Windows 98/Me 共通)」(p.22) を参照して、ドライバの更新作業を行ってください。

5 Windows 2000/XP

本製品のドライバを Windows 2000/XP 上にインストールする手順を説明します。

5.1 ドライバのインストール

ここにあげる手順は一例であり、お客様の環境によっては、手順や表示画面が異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

5.1.1 用意するもの

- 本製品本体
- コンピューター(CardBus 対応 PC カードスロット付き、Windows 2000 または XP インストール済み)
- 本製品のドライバディスク (CD-ROM)



注意

ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。

また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

5

5.1.2 アップデートインストール

(Windows 2000 の場合)

Windows 95/98/NT において本製品をご使用の状態から Windows 2000 へのアップデートインストールをした場合、Windows 98/95/NT 上で動作していた本製品のドライバは無効になるため、新たに Windows 2000 用のドライバに更新する必要があります。Windows 2000 へのアップグレード中、本製品に関するメッセージが表示されますが、そのままアップグレードを継続してください。アップグレード後、デバイスマネージャ内で本製品は「その他のデバイス」として登録されておりますので、そこからドライバの更新を行ってください。更新の手順については、「5.3 ドライバの更新」(p.47)を参照してください。

(Windows XP の場合)

Windows 98/2000/95/NT から Windows XP へのアップデートをする場合は、本製品をコンピューターの PC カードスロットから取り外した状態で実行してください。アップデートが完了すると、Windows XP は本製品のドライバがインストールされていない状態となります。

5.1.3 ドライバの新規インストール

- 1 本製品をコンピューターのPCカードスロットに取り付けていない状態で、コンピューターの電源をオンにし、Windows 2000 または Windows XP を起動してください。
- 2 「コンピュータの管理者」権限のユーザ名 ¹ でログオンしてください。 ²
- 3 コンピューターの PC カードスロットに本製品を挿入してください。



注意

CardBus 非対応の PC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。CardBus 対応 PC カードでは、CardBus 非対応機種種の PC カードスロットに誤ってカードを挿入することを防ぐため、カードの形状を工夫してあります。そのため、無理に挿入しようとするとカードまたは PC カードスロットを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。

- 4 次の画面が表示されますので「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」オプションを選択して、「次へ」をクリックします。(Windows 2000 の場合は選択オプションがありませんので、そのまま「次へ」をクリックします。)

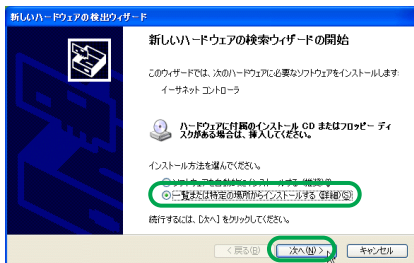


図 5.1.3-1 新しいハードウェアの検索ウィザード

1. Windows 2000/XP では、「Administrator」または「コンピュータの管理者」の権限がないと、デバイスドライバの更新や削除、ネットワークの設定といったシステムレベルの作業ができません。
2. ログオン画面が表示されずに起動したときは、いったんログオフし、「Administrator」または「コンピュータの管理者」権限のユーザ名で再ログオンしてください。

- 5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」をクリックします。(Windows 2000 の場合は、「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」をクリックします。)

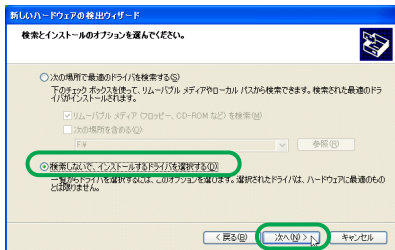


図 5.1.3-2 ドライバの選択

- 6 「ネットワークアダプタ」を選択して、「次へ」をクリックします。

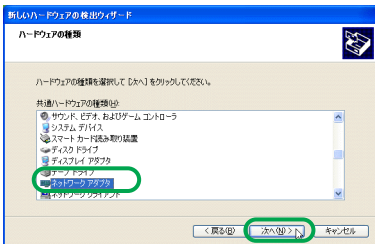


図 5.1.3-3 ネットワークアダプタの選択

7 「ディスク使用」をクリックします。

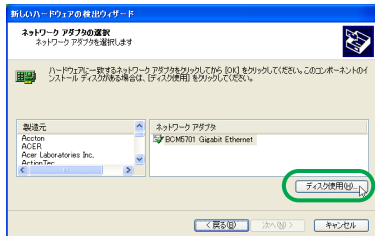


図 5.1.3-4 ディスク使用

8 本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに挿入してください。

9 「製造元のファイルのコピー元」に「D:¥WXP」(Windows 2000 の場合は、「D :¥W2K」) と入力し、「OK」をクリックします。

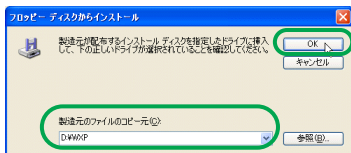


図 5.1.3-5 ドライバの指定

10 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を選択し、「次へ」をクリックします。

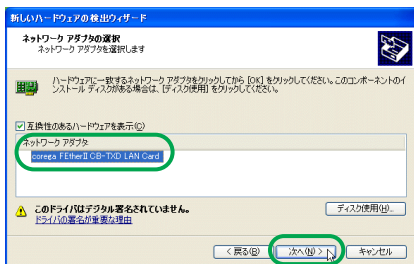


図 5.1.3-6 ドライバの選択

- ▶ Windows 2000 をご使用の場合は、手順 13 へお進みください。
Windows XP をご使用の場合は、手順 11 12 15...とお進みください。

- 11 (Windows XP のみ) 次のようなメッセージボックスが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。弊社にて動作確認済みです。

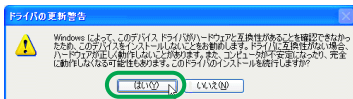


図 5.1.3-7 ドライバの更新警告

- 12 (Windows XP のみ) 次のようなメッセージボックスが表示された場合は、「続行」をクリックしてください。弊社にて動作確認済みです。

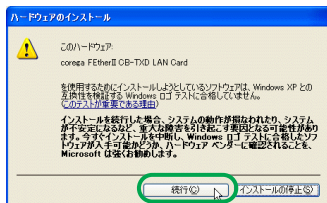


図 5.1.3-8 Windows ログオテストに関する警告

- 13 (Windows 2000 のみ) ハードウェアデバイスの名称が「corega FEther II CB-TXD LAN Card」となっていることを確認し、「次へ」をクリックします。

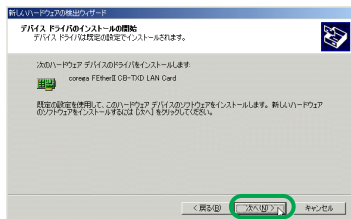


図 5.1.3-9 ドライバの確認

- 14 (Windows 2000 のみ) 次のような画面が表示されることがありますが、「はい」をクリックしてインストールを続行してください。



注意

Microsoft デジタル署名はありませんが、本製品は正常に動作します。

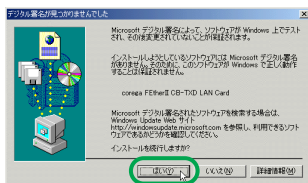


図 5.1.3-10 デジタル署名

- 15 「完了」をクリックします。

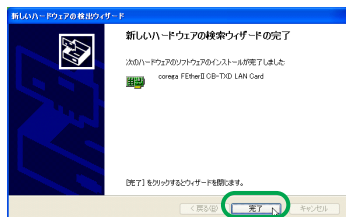


図 5.1.3-11 新しいハードウェアの検索ウィザードの完了

- 16 以上で本製品のドライバのインストールは終了です。引き続き、「5.2 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。



注意

Windows 2000/XP では、ドライバインストール 終了後に再起動をする必要はありませんが、お客様のご使用環境によっては再起動を求められることがあります。

5.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

5.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- 1 (Windows XP のみ) 「スタート」 「コントロールパネル」をクリックします。以下の画面が表示される場合は、「クラシック表示に切り替える」をクリックします。

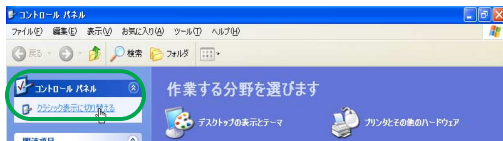


図 5.2.1-1 クラシック表示

- 2 「コントロールパネル」から「システム」をダブルクリックします。

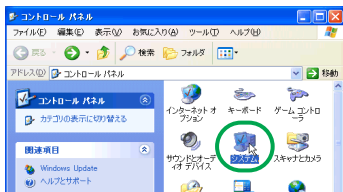


図 5.2.1-2 コントロールパネル

- 3 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。

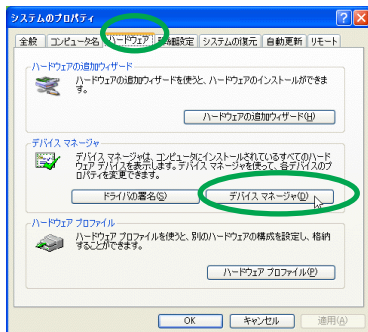


図 5.2.1-3 「ハードウェア」タブ

- 4 「ネットワークアダプタ」アイコンの左の「+」をクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が表示されます。

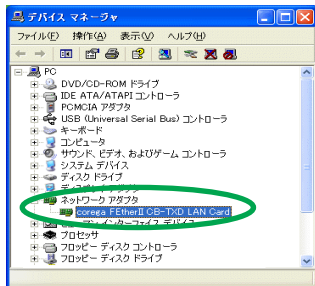


図 5.2.1-4 デバイスマネージャ



注意

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく、「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは、「7.1 ドライバのトラブル (p.67)」をご覧ください。

- 5 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックします。「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認してください。

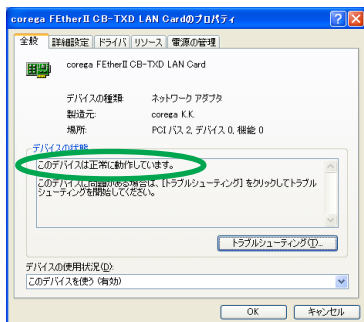


図 5.2.1-5 デバイスの状態

- 6 本製品が使用する I/O ベースアドレス、インタラプト (IRQ) などは、Windows 2000/XP によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。

5

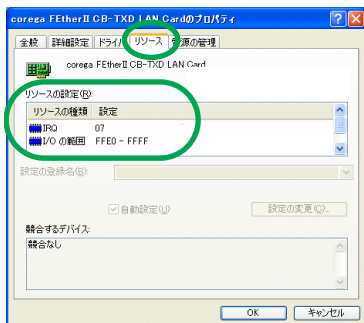


図 5.2.1-6 リソースの確認

5.2.2 ネットワークの設定

使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。詳細はシステム管理者にご確認ください。

- 1 「スタート」 「コントロールパネル(クラシック表示)」の「ネットワーク接続」アイコンをダブルクリックしてください。
- 2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

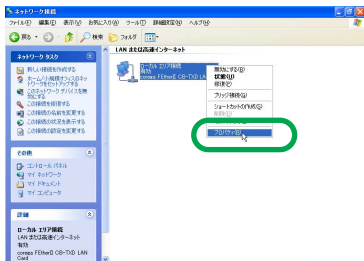


図 5.2.2-1 ネットワーク接続のプロパティ

- 3 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックして、「プロパティ」をクリックします。

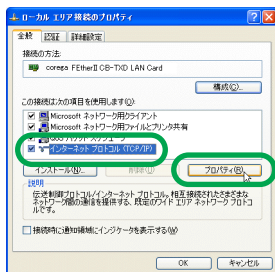


図 5.2.2-2 ローカルエリア接続のプロパティ

- 4 TCP/IP のパラメータの設定を行います。パラメータの値はご使用の環境に合わせて設定してください。設定が終了したら「OK」をクリックします (画面は一例です)。

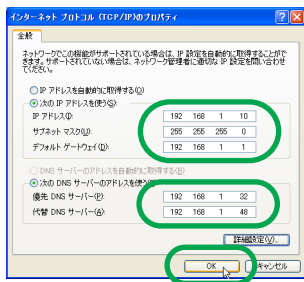


図 5.2.2-3 TCP/IP パラメータの設定

- 5 必要な設定を終えたら、「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の「OK」をクリックします。

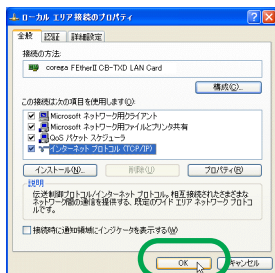


図 5.2.2-4 ローカルエリア接続のプロパティ

5.2.3 本製品の詳細設定

本製品のポート（RJ-45 モジュラージャック）は、「Auto-Negotiation」に設定されており、接続先機器との通信速度（100/10Mbps）や通信モード（Full/Half Duplex）は、本製品の Auto-Negotiation 機能によって自動的に設定されます。Auto-Negotiation をサポートしていない機器に接続した場合、Auto-Negotiation 機能が正しく働かないため、ご使用になりたい状況に合わせて以下のように設定してください。

- 1 「デバイスマネージャ」で「ネットワークアダプタ」の「corega FEther II CB-TXD」をダブルクリックし（図 5.2.1-4 参照）、「詳細設定」タブの「値」から適切な項目を選択してください。

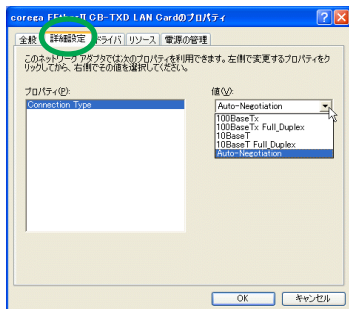


図 5.2.3-1 詳細設定

Connection Type

- Auto-Negotiation（デフォルト）

Auto-Negotiation を有効に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていれば、可能な最高の速度およびモードとなります。接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていない場合、通信速度のみを検出し、検出された速度の Half Duplex モードとなります。

- 100BaseTx

100Mbps の Half Duplex（半二重）に設定します。

- 100BaseTx Full_Duplex

100Mbps の Full Duplex（全二重）に設定します。

- 10BaseT

10Mbps の Half Duplex（半二重）に設定します。

- 10BaseT Full_Duplex
10Mbps の Full Duplex (全二重) に設定します。

5.3 ドライバの更新

ドライバの更新は、弊社のホームページ (<http://www.corega.co.jp/>) などから、本製品用の最新のドライバを入手した場合に実行します。

- 1 「コンピュータの管理者」権限 (Windows 2000 の場合は「Administrator 権限」) でログオンします。
- 2 「コントロールパネル」 「システム」と進み、「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。「ネットワークアダプタ」の「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックしてください (図 5.2.1-4 参照) 。
- 3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックしてください。

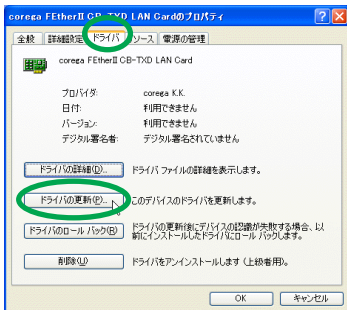


図 5.3-1 「ドライバの更新」ボタン

- 4 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックします。(Windows 2000 の場合は選択オプションがありませんので、そのまま「次へ」をクリックします。)

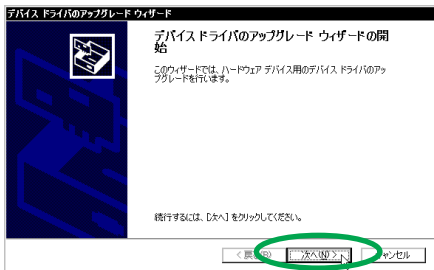


図 5.3-2 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」の起動

- 5 37 ページの手順 5 ~ 15 と同様の操作を繰り返します。ただし、入手した最初のドライバの格納場所については、環境によって異なります。

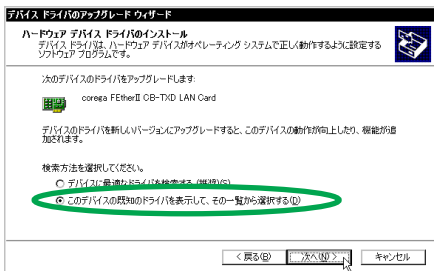


図 5.3-3 検索方法の選択

- 6 以上でドライバの更新は終了です。

5.3.1 ドライバのロールバック

ドライバの更新により本製品が正常に動作しなくなってしまった場合、更新前に使用していたドライバに戻すことができます。この機能は Windows XP のみで使用することができます。Windows 2000 をご使用の方は読み飛ばしてください。

- 1 「デバイスマネージャ」ウィンドウで「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を右クリックして、「プロパティ」をクリックしてください。
- 2 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバのロールバック」ボタンをクリックしてください。

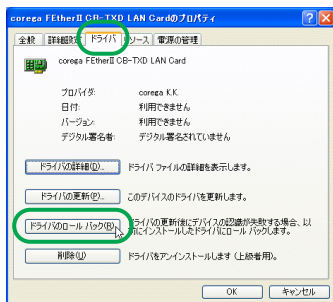


図 5.3.1-1 ドライバのロールバック

- 3 「はい」をクリックします。

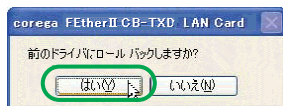


図 5.3.1-2 確認のメッセージ

5.4 ドライバの削除

ドライバの削除は、ドライバの再インストールをする場合などに行います。ドライバのインストールに失敗した場合も、この手順にならない、間違ってインストールされたドライバを削除してから、あらためてインストール作業を行います。

- 1 「コンピュータの管理者」権限 (Windows 2000 の場合は「Administrator 権限」) でログオンします。
- 2 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします (図 5.2.1-3 参照)。
- 3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を右クリックして「削除」を選択します。

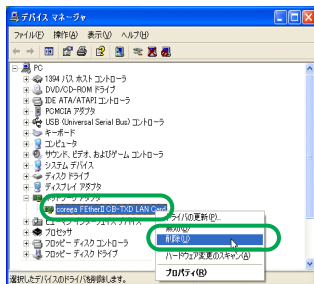


図 5.4-1 デバイスマネージャからの削除

- 4 「OK」をクリックします。

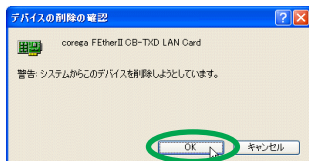


図 5.4-2 デバイス削除の確認

- 5 本製品のアイコンが消えていることを確認してください。

- 6 Windows 2000/XP をシャットダウンし、コンピューターの電源をオフにします。
- 7 コンピューターの PC カード取り外しボタンを押し、本製品を取り外してください。

5.5 本製品を一時的に使用しないとき

ドライバのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき、たとえば UTP ケーブルを本製品から外すような場合は、下記の手順にしたがって本製品のドライバを無効にしてください¹。

- 1 「Administrator」または「コンピュータの管理者」権限でログオンします。
- 2 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします（図 5.2.1-4 参照）。
- 3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、その下に表示される「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を右クリックして「無効」を選択してください。²

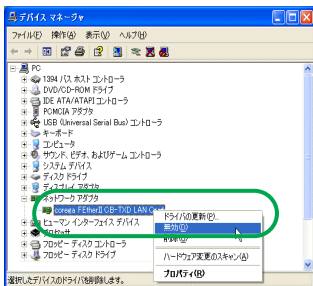


図 5.5-1 デバイスマネージャで無効を選択

1. ドライバを有効なままにしておくと、Windows 2000/XP はこれをネットワークエラーとみなしてシステムログに記録します（ログは「イベントビューア」などから閲覧可能）。
2. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「無効にする」を選択しても同じ結果となります。

- 4 「はい」をクリックします。

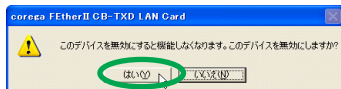


図 5.5-2 「はい」をクリック

- 5 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」のアイコンに「x」が付き、ドライバが無効になります。「X」が消え、ドライバは動作を再開します。
- 6 再び、本製品を使用するときは、「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を右クリックし、「有効」をクリックしてください。「X」が消え、ドライバは動作を再開します。

5.6 ドライバの再インストール

ドライバの再インストールを行う場合は、ドライバをいったん削除してから行います。ドライバのインストールに失敗した場合も、間違っ

てインストールされたドライバをまず削除してから再びインストール作業を行います。

- 1 「5.4 ドライバの削除」(p.50) を参考にドライバを削除してください。
- 2 「5.1.3 ドライバの新規インストール」(p.36) の手順にしたがい、本製品のドライバをインストールします。

6 Windows 95 (Version BまたはC)

本製品のドライバを Windows 95 上にインストールする手順を説明します。

6.1 ドライバのインストール

ここにあげる手順は一例であり、お客様の環境によっては、手順や表示画面が異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

6.1.1 Windows 95 のバージョン確認

Windows 95 には、Version 950、Version A、Version B、Version C の 4 種類のバージョンがあります。本製品は Version B または Version C でのみ動作いたします。下記の手順にしたがって Windows 95 のバージョンを確認してください。

- 1 コンピューターの電源をオンにし、Windows 95 を起動します。
- 2 「スタート」「設定」「コントロールパネル」を選択し、「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「情報」タブをクリックします。

Version 950

「システム」の番号が「4.00.950」であれば Version 950 です。



図 6.1.1-1 Windows Version 950

Version A

「システム」の番号が「4.00.950a」であれば Version A です。



図 6.1.1-2 Windows Version A

Version B、Version C

「システム」の番号が「4.00.950 B」であれば VersionB、「4.00.950 C」であれば VersionC です。



図 6.1.1-3 Windows Version B、Version C

6.1.2 用意するもの

- 本製品
- コンピューター（CardBus 対応 PC カードスロット付き、
Windows 95 Version B または C インストール済み）
- FEther II CB-TXD ドライバディスク（CD-ROM）
- Windows 95 の CD-ROM またはフロッピーディスク



警告

Windows 95 が、コンピューター購入時にあらかじめインストールされた形態で提供されたもの、すなわちプリインストール版である場合は、Windows 95 のバックアップ CD-ROM が付属しているかどうかをご確認ください。バックアップ CD-ROM が付属していない場合は、安全のため必ずフロッピーディスクに Windows 95 のバックアップを取った後でドライバのインストールを開始してください。バックアップの手順については、ご使用のコンピューターの取扱説明書をご覧ください。



注意

ハードディスク内のデータは、必ずフロッピーディスク等にバックアップをとった後で、ドライバのインストールを開始してください。特に重要なデータについては、必ずバックアップをとられることをお勧めします。また、いかなる場合でも、データが消失または破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

6.1.3 ドライバの新規インストール

- 1 コンピューターの電源をオンにし、Windows 95 を起動してください。
- 2 コンピューターの PC カードスロットに本製品を挿入してください。



注意

CardBus 非対応の PC カードスロットには、絶対に本製品を挿入しないでください。CardBus 対応 PC カードでは、CardBus 非対応機種種の PC カードスロットに誤ってカードを挿入することを防ぐため、カードの形状を工夫してあります。そのため、無理に挿入しようとするとカードまたは PC カードスロットを破損させる恐れがありますので、ご注意ください。

- 3 Windows 95 は、本製品を自動的に検出し、「デバイスドライバウィザード」が起動します。「次へ」をクリックします。

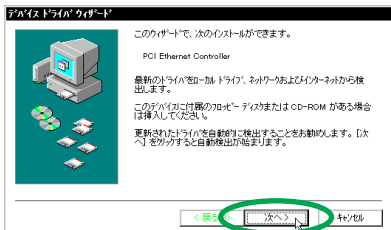


図 6.1.3-1 デバイスドライバウィザード

次の画面が表示されますので、「場所の指定 ...」をクリックしてください。

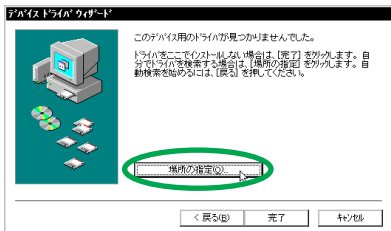


図 6.1.3-2 場所の指定

- 4 本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、「D:¥W95」と入力し「OK」をクリックしてください。

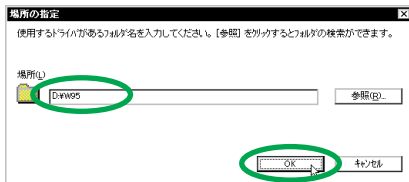


図 6.1.3-3 ドライバファイルの所在

- 5 次のダイアログで、ドライバの名称が「corega FEther II CB-TXD LAN Card」となっていることを確認し、「完了」をクリックしてください。

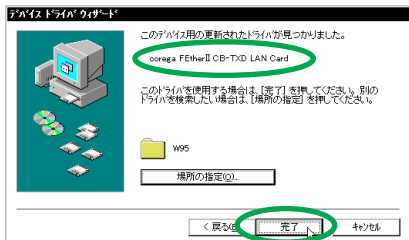


図 6.1.3-4 「デバイスドライバウィザード」の完了

- 6 続いて必要な Windows 95 ファイルのコピーが始まります。Windows 95 のマスターディスクが要求されますので、「OK」をクリックし、ご使用の形態に応じて次ページの手順に進んでください。

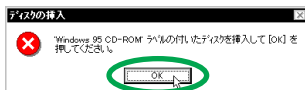


図 6.1.3-5 Windows 95 マスターディスクの要求

プリインストール版 Windows 95 の場合

この場合は Windows 95 ファイルが既にハードディスクにコピーされています。画面上ではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「ファイルのコピー元」に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

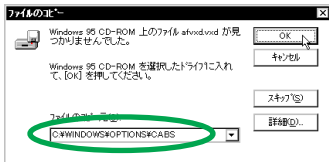


図 6.1.3-6 パスの指定 (プリインストール版)



機種によっては ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS と異なる場所に保存されていることもあります。その場合はコンピューターの取扱説明書をご覧になるか、検索コマンドにより拡張子「CAB」のファイルが存在するフォルダを探し、そのディレクトリパスを指定してください。

CD-ROM の場合

CD-ROM をドライブに挿入し、「ファイルのコピー元」に「D:¥WIN95」を入力してください。

フロッピーディスクの場合

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元」で「A:¥」を入力してください。

インストールの途中、「CODCBX4.SYS が見つかりませんでした。」というようなダイアログが表示された場合は、本製品のドライバディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、「ファイルのコピー元」に「D:¥W95」と入力し「OK」をクリックしてください。ファイル「CODCBX4.SYS」は、本製品に添付されているドライバディスクの中に収められています。

- 7 今回初めてネットワークアダプターをインストールするときは、次の画面が表示されます。「OK」をクリックしてください。この画面が表示されないときは、手順 9 に進んでください。

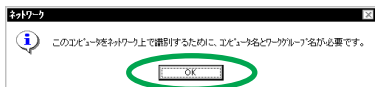


図 6.1.3-7 ネットワーク設定要求ダイアログ

- 8 続いて次のダイアログが表示されます。コンピュータ名、ワークグループ名およびコンピュータの説明（省略可）を入力してください。これらの情報については、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。

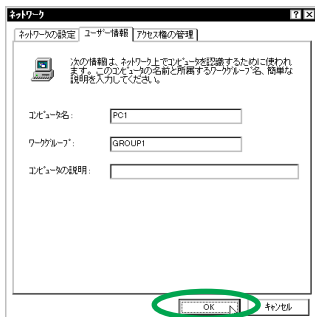


図 6.1.3-8 ユーザー情報の入力（例）



コンピュータ名およびワークグループ名の入力には、15文字以下の半角英数字を使用します。詳細は、Windows 95 の取扱説明書およびオンラインヘルプをご覧ください。また、このダイアログをインストール後に変更する場合は、「コントロールパネル」「ネットワーク」を起動し、「ユーザー情報」タブを選択してください（既にこのダイアログの内容が設定されている場合、このダイアログはドライバのインストール中に表示されません）。

- 9 「システム設定の変更」ダイアログが表示されます。CD-ROM ドライブからドライバディスクを抜き、「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「はい」をクリックし、再起動してください。以上でインストールは終了です。

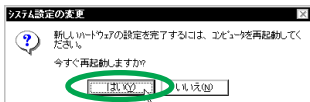


図 6.1.3-9 システム設定の変更



インストール後の再起動時に、次のようなダイアログが表示されることがあります。DHCP サーバーを使用していなければ「いいえ」をクリックしてください。LAN 環境で TCP/IP をご使用になる場合は、DHCP の設定に関してシステム管理者にご相談ください。

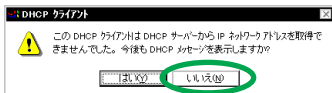


図 6.1.3-10 DHCP のメッセージ

6.2 インストールの確認とアダプターの設定

はじめにドライバのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

6

6.2.1 デバイスマネージャによるインストールの確認

- 1 コンピューターの再起動が完了したら、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。

- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。インストールが正常に行われていれば、「ネットワークアダプタ」の下に「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が表示されます。



図 6.2.1-1 デバイスマネージャ

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークが付いていたたり、アイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」の下にあるときはインストールに失敗しています。詳しくは、「7.1 ドライバのトラブル」(p.67)をご覧ください。

- 3 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックします。「情報」タブの「デバイスの状態」欄に「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認してください。

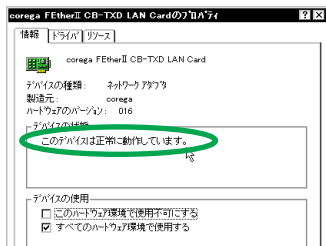


図 6.2.1-2 デバイスの状態



「ドライバ」タブを選択すると、「このデバイスにはドライバファイルが必要でないか、または組み込まれていません。」と表示されることがありますが、これは本製品の仕様によるものであり、本製品のご使用には支障ありません。安心してご使用ください。

- 4 本製品が使用する I/O アドレス、インタラプト (IRQ)などは Windows 95 によって自動的に設定されます。「リソース」タブを選択すると、これらを確認することができます。

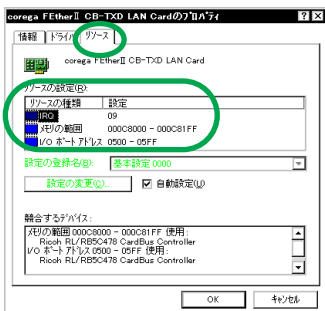


図 6.2.1-3 リソース

「競合するデバイス」の欄には CardBus によって、本製品に割り当てられたリソースが表示されています。



CardBus コントローラとリソースが競合しているような記述になっていますが、問題ありません。(競合は起きていません。)

6.2.2 PCカード (PCMCIA) による確認

「コントロールパネル」の「PCカード (PCMCIA)」をダブルクリックします。「ソケットの状態」タブで、該当するソケットに「corega FEther II CB-TXD LAN Card」が表示されていることを確認します。

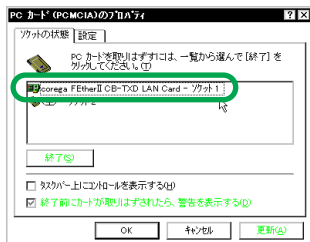


図 6.2.2-1 ソケットの状態

6.2.3 ネットワークの設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。インターネットへのアクセスを行うためには (WWW ブラウザーなどをご使用になるためには) TCP/IP プロトコルが必須です。また、基本的な設定例が、付録「A Windows 95/98 のネットワークの設定例」(p.72) にありますので参考してください。設定に関する詳細は、お客様の環境におけるシステム管理者にご相談ください。

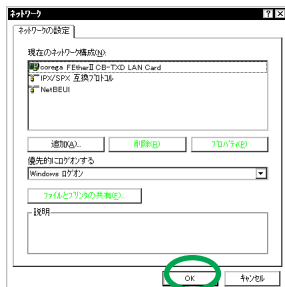


図 6.2.3-1 ネットワークの設定

必要な設定を終えたら、「ネットワーク」ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。再起動を促すダイアログが表示されます。設定内容は、再起動後から有効となります。

6.2.4 本製品の詳細設定

本製品のポート（RJ-45 モジュラージャック）は、「Auto-Negotiation」に設定されており、接続先機器との通信速度（100/10Mbps）や通信モード（Full/Half Duplex）は、本製品の Auto-Negotiation 機能によって自動的に設定されます。Auto-Negotiation をサポートしていない機器に接続した場合、Auto-Negotiation 機能が正しく働かないため、ご使用になりたい状況に合わせて以下のように設定してください。

- 1 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 2 「ネットワークの設定」タブの「corega FEther II CB-TXD LAN Card」をダブルクリックし、「詳細設定」タブの「値」から適切な項目を選択してください。

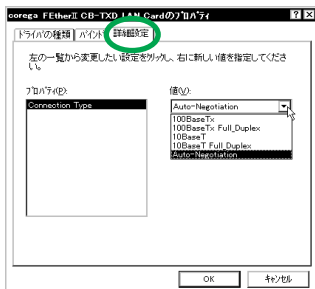


図 6.2.4-1 詳細設定

Connection Type

- Auto-Negotiation（デフォルト）

Auto-Negotiation を有効に設定します。この項目を選択した場合、接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていれば、可能な最高の速度およびモードとなります。接続先機器が Auto-Negotiation をサポートしていない場合、通信速度のみを検出し、検出された速度の Half Duplex モードとなります。

- 100BaseTx
100Mbps の Half Duplex（半二重）モードに設定します。
- 100BaseTx Full_Duplex
100Mbps の Full Duplex（全二重）に設定します。

- 10BaseT
10Mbps の Half Duplex (半二重) に設定します。
- 10BaseT Full_Duplex
10Mbps の Full Duplex (全二重) に設定します。

6.3 ドライバの削除

- 1 「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」を選択し、「ネットワークアダプタ」アイコンをダブルクリックします。「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を選択し、「削除」をクリックしてください。



図 6.3-1 削除ボタンをクリック

- 2 下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。

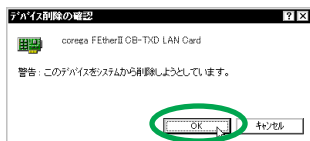


図 6.3-2 デバイス削除の確認



注意

Windows 95 Version C の場合、削除に関する選択肢が表示されますので、「すべての設定から削除」を選択して、「OK」をクリックしてください。

- 3 デバイスマネージャで本製品のアイコンが消えたことを確認し、「システムのプロパティ」の「閉じる」をクリックしてください。
- 4 タスクバーの PC カードアイコンをダブルクリックします。



図 6.3-3 PC カードアイコン

- 5 「PC カード (PCMCIA) のプロパティ」が表示されます。本製品が挿入されていたソケットの表記が「-」(画面では「ソケット 1」となっています。該当するソケットを選択して、「終了」をクリックしてください。

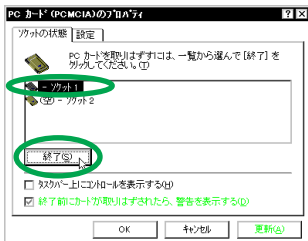


図 6.3-4 デバイス削除後の「ソケットの状態」

- 6 「OK」ボタンをクリックしてください。

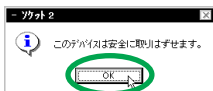


図 6.3-5 デバイス取りはずしの確認

- 7 PC カードスロットから本製品を抜きます。

- 8 「PCカード (PCMCIA) のプロパティ」の「ソケットの状態」で該当スロットが「空」と表示されます。内容を確認し「OK」ボタンをクリックしてください。

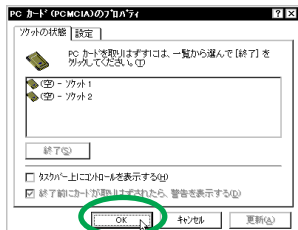


図 6.3-6 ソケットの状態

- 9 タスクバー上で PC カードアイコンが消えていることもご確認ください。以上で削除の手続きは終了です。



図 6.3-7 タスクバー

6.4 ドライバの再インストール

ドライバを再インストールする手順は以下の通りです。

- 1 「6.3 ドライバの削除」(p.64) の手順にしたがい、本製品のドライバを削除します。
- 2 「6.1.3 ドライバの新規インストール」(p.54) の手順にしたがい、本製品のドライバをインストールします。

7 トラブルシューティング

7.1 ドライバのトラブル

ここでは、ドライバのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

ここでは、Windows 98 の場合を例に説明しています。



注意

以下の手順は、本製品をPC カードスロットに取り付けた状態で行ってください。

7.1.1 本製品を認識しない

正常にインストールできない場合や、PC カードが検出されない場合、また「デバイスマネージャによるインストールの確認」にしたがって確認を行うと「corega FEther II CB-TXD LAN Card」アイコンが以下のようにになっている場合は、ドライバのインストールに失敗しています。

- 「ネットワークアダプタ」の項目がない
- 「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまった¹
- デバイスマネージャで「!」「?」マークが付く
- 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」アイコンが2つ以上ある



「ネットワークアダプタ」の項目がないとか、本製品のアイコンが「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下に入ってしまう原因として、ドライバのインストール中に行われる Windows システム関連ファイル(netapi.dll など)のインストールをキャンセルしてしまった場合などが考えられます。



注意

コンピューターの機種によっては、本製品をPC カードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、PC カードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください(奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります)。

1. これらの原因としては、ドライバのインストール中に行われる Windows システム関連のファイル(netapi.dll など)のインストールをキャンセルしてしまったことなどが考えられます。

このようなときは、ドライバを一旦削除し、再インストールを行います。以下の手順を実行してください。

- 1 不正にインストールされた「corega FEther II CB-TXD LAN Card」アイコンを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。Windows 2000/XP の場合は、「corega FEther II CB-TXD LAN Card」アイコンを右クリックし、「削除」をクリックします。
- 2 各 OS の「ドライバの再インストール」の手順にしたがって、ドライバをインストールしなおしてください。

7.1.2 デバイスマネージャで「×」が付く

Windows Me/98/95 の場合

デバイスマネージャの「corega FEther II CB-TXD LAN Card」アイコンに「×」マークが付いている場合は、デバイスが「使用不可」または「無効」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態に切り替えてください。

- 1 「corega FEther II CB-TXD LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」ボタンをクリックし、「全般」タブを表示します。
- 2 Windows Me/98 および Windows 95 Version B、C の場合、「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外し、「すべてのハードウェア環境で使用する」にチェックを付けてください。「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェック「✓」を外してください。

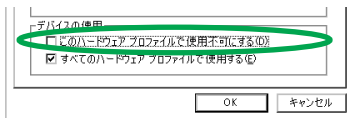


図 7.1.2-1 使用許可の切り替え

Windows 2000/XP の場合

- 1 「5.5 本製品を一時的に使用しないとき」(p.51) をご覧ください。

7.1.3 PCMCIA コントローラが正しく表示されない

本製品のドライバは、PCMCIA コントローラと協調して動作します。そのため、PCMCIA コントローラが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバは動作することができません。



注意

ご使用のコンピューターの PCMCIA コントローラ専用ドライバが、フロッピーディスクなどで提供されていることがあります。以下で説明する手順を実行する前に、必ずご使用のコンピューターの取扱説明書を確認し、その取扱説明書に記載されている手順で PCMCIA コントローラの再インストールを行ってください。また、専用のドライバが提供されていない場合は、どのようなドライバがインストールされているかを記録¹した後（下記参照）以下の手順を実行してください。



このようなときは、OS のシステムレポート出力機能を利用すると便利です。レポートを出力するには、「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」とどり、「印刷」ボタンをクリックします。「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択し、以後画面の指示にしたがってください。



注意

CardBus 対応のコンピューター機種には、使用する PC カードに応じて 2 種類（16bit/32bit）の PCMCIA コントローラを切り替えなければならないものがありますのでご注意ください。詳細は、ご使用のコンピューターの取扱説明書もしくは、コンピューターのメーカーにご確認ください。

各 OS の「デバイスマネージャによるインストールの確認」にしたがってインストールの確認を行った際に、「PCMCIA ソケット」の下に表示される PCMCIA コントローラのアイコンに「？」、「！」のマークが付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

- 1 「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」と進みます。
- 2 「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。
- 3 「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。

1. このような場合は、Windows のシステムレポート出力機能を利用すると便利です。レポートの出力方法については、「F.1 調査依頼書の記入について」をご参照ください。

- 4 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。
- 5 Windows 98 を終了し、コンピューターの電源をオフにした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。
- 6 再びコンピューターの電源をオンにします。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード (PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。



Plug & Play 機能により、ドライバを自動的に読み込んでしまうコンピューター機種もあります。

- 7 「ハードウェアの追加」アイコン (コントロールパネル) をダブルクリックしてください。「ハードウェアの追加ウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックしてください(「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります)。
- 8 「はい (通常はこちらを選んでください)」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ」ボタンをクリックして進みます。最後に「完了」ボタンをクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。
- 9 続いて、自動的に「PC カード (PCMCIA) ウィザード」が起動します。表示されるメッセージにしたがって操作してください。

7.2 ネットワークのトラブル

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

7

7.2.1 LINK LED は点灯していますか?

LINK LED は、接続先機器 (ハブやスイッチ) と正しく接続されている場合に点灯します。LINK LED は、本製品と接続先機器の両方に存在します。本製品と接続先機器の両方の LINK LED が点灯していることを確認してください。どちらか一方しか点灯していない、または両方とも点灯しない場合は、以下のことを確認してください。

- 接続先機器の電源がオンになっているか確認してください。
- UTP ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 正しい UTP ケーブルを使用しているか確認してください。本製品と接続先機器との接続には「ストレートタイプのケーブル」を使用しなければなりません。

- 接続先機器のポートの設定が正しいか確認してください。機器によっては、機器同士を接続するためのポート（カスケードポート）を持つものがあり、通常カスケードポートには設定スイッチが存在します。カスケードポートに本製品を接続するときは、カスケードポートの設定スイッチで同ポートを「MDI-X」や「to pc」に設定しなければなりません（通常のハブやスイッチのポートとして設定する）。
- 接続先機器の特定のポートが故障している可能性もあります。ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
- UTP ケーブルに問題はありますか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくい（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試験してみてください。
- 接続先機器の通信速度、カードの通信速度を確認してください。接続先機器に合った速度を選択してください。

7.2.2 LINK LED は点灯しているが ...

LINK LED は点灯しているが、通信が遅いなどの障害が発生している場合、以下のことを確認してください。

- UTP ケーブルの長さは正しいですか？ ふたつのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは、最長 100m と規定されています。
- 正しい UTP ケーブルを使用していますか？ 100BASE-TX では「カテゴリ 5」、10BASE-T では「カテゴリ 3」以上の UTP ケーブルを使用しなければなりません。
- UTP ケーブルに問題はありますか？ ケーブルの不良は外観から判断しにくい（結線は良いが特性が悪い場合など）、他のケーブルに交換して試験してみてください。

7.2.3 Auto-Negotiation 機能

本製品のポート（RJ-45 モジュラージャック）は、「Auto-Negotiation」に設定されており、接続先機器との通信速度（100/10Mbps）や通信モード（Full/Half Duplex）は、本製品の Auto-Negotiation 機能によって自動的に設定されます。しかしながら、Auto-Negotiation をサポートしていない機器に接続した場合、正常に機能しない場合があります。ご使用になりたい状況に合わせて設定を変更するには、各 OS の「本製品の詳細設定」を参照してください。

付録

A Windows 95/98 のネットワークの設定例 (ディスクの共有設定例)

ここでは、Windows 98/95で、ファイル(ディスク)の共有をするためのネットワークの設定例について説明します。Windows 98の場合は「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.33)、Windows 95の場合は「6.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.59)を参照し、LAN アダプターの設定が正常であることを確認した後で、ネットワークを利用したデータの送受信を行ってみましょう。データの送受信をするためには、各コンピュータについて設定が必要になります。



・Windows Me のディスク共有設定について

Windows Me の場合、OS に標準搭載されているホームネットワークウィザードを使用した設定をお勧めします。設定手順の詳細については、別途参考書等をご覧ください。

・Windows 2000/XP のディスク共有設定について

Windows 2000 の場合、ユーザーの管理や共有資源(ディスクなど)の管理等の設定に関するセキュリティ機能が強化され、複雑になっています。設定の手順の詳細については、別途参考書等をご覧ください。

A.1 ファイル(ディスク)の共有をするための設定方法

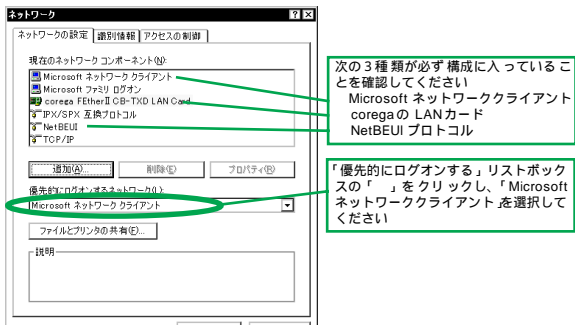
ピアツーピア接続をするためには、すべてのコンピュータについて以下の設定が必要になります。

- ・「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認、「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加
- ・ユーザー情報、または識別情報(コンピュータ名、ワークグループ)の確認
- ・コンピュータの共有設定(ハードディスク・プリンター等の共有)

ここでは、ハードディスクの共有を説明しています。プリンターを共有する場合は、プリンターメーカーによって操作が異なりますので、プリンターメーカーにご相談ください。

A.1.1 「Microsoft ネットワーククライアント」、「NetBEUI」の確認

- 1 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」を選択します。
- 2 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」¹に、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。



「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が「現在のネットワークコンポーネント」に無い場合は、以下を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

【ネットワークコンポーネントに無い場合】

「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていない場合は、以下の項目を参照してネットワークコンポーネントに追加してください。

- 「Microsoft ネットワーククライアント」が無い場合 「付録 A.3.1」へ
- 「NetBEUI」が無い場合 「付録 A.3.2」へ

「corega の LAN カード」が無い場合

- Windows 98 では「4.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.33)へ
- Windows 95 では「6.2 インストールの確認とアダプターの設定」(p.59)へ

1. Windows 95 の場合は、「現在のネットワークコンポーネント」が「現在のネットワーク構成」という表示になります。

A.1.2 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

以下の手順にしたがい、「Microsoft ネットワーク共有サービス」を追加します。ここでは、Windows 98 の画面を例にしています。

- 1 「ファイルとプリンタの共有」をクリックします。
- 2 「ファイルを共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」をチェックし「OK」をクリックします。画面が戻り「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されます。

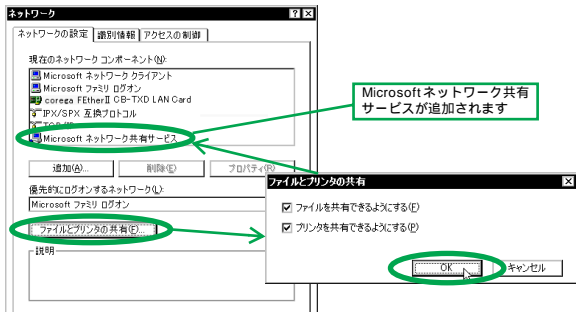


図 A.1.2-1 「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

A.2 識別情報の確認

以下の手順にしたがい、「識別情報」を確認します。ここでは、Windows 98 の場合を例にしています。

- 1 「コントロールパネル」 「ネットワーク」をダブルクリックし、「識別情報」タブをクリックしてください。 ¹

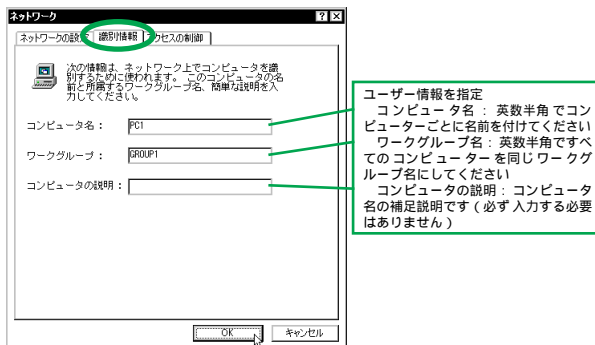


図 A.2-1 「識別情報の確認」

設定する項目の詳細は、次の通りです。

- **コンピュータ名**：ネットワーク上でコンピュータを識別するための名称です。各コンピュータごとに固有の名称を設定します。コンピュータ名は、自由に設定できますが、以下にご注意ください。
 - 15文字以下の半角英数字で入力すること
 - 接続するすべてのパソコン名は異なること
- **ワークグループ**：ネットワーク上のコンピュータをグループ分けするための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のコンピュータは、すべて同一の名称にしてください。ワークグループ名は、自由に設定できますが以下にご注意ください。
 - 15文字以下の半角英数字で入力すること
 - すべてのワークグループ名は同じにすること

1. Windows 95 の場合は、「識別情報」というタブが「ユーザー情報」というタブになります。

LAN環境へアクセスする場合は、所属するネットワークのワークグループと同じにすること

ワークグループ名などの詳細は、ネットワーク管理者へお問い合わせください。

- コンピュータの説明：「コンピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。

- 2 「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を設定します。設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてください。



重要：ワークグループ名は、接続するすべてのコンピューターに同じ名前を設定してください。Windows の OS 自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字(日本語・カナ)に対応していません。必ず英数半角をご使用ください。

- 3 Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動してください。



要求されない場合でも、設定を有効にしますので手動で再起動してください。

- 4 Windows が再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。



図 A.2-2 「ネットワークパスワードの入力」

- ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。ただし、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。
- ユーザー名とパスワードは、Windows をセットアップする過程で設定しています。初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。(パスワードは空白でも可能です)



ユーザー名とパスワードは任意に設定できます。特に決まりはありません。また名称によって通信ができないという事もあります。



注意

「ネットワークパスワードの入力」ダイアログは、「ネットワークの設定」ダイアログ（「コントロールパネル」 「ネットワーク」）の、「優先的にログオンするネットワーク」の設定で、「Microsoft ネットワーククライアント」が選択されていない場合は表示されません。



「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。

入力しない場合は、ネットワークでの通信ができなくなることがあります。

A.3 「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法

ここでは、「Microsoft ネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法について説明します。以下の手順に従い、操作してください。ここでは、Windows 98 の場合を例にしています。

A.3.1 「Microsoft ネットワーククライアント」の追加方法

- 1 「スタート」メニューの「設定」 「コントロールパネル」 「ネットワーク」をダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで、「追加」をクリックしてください。

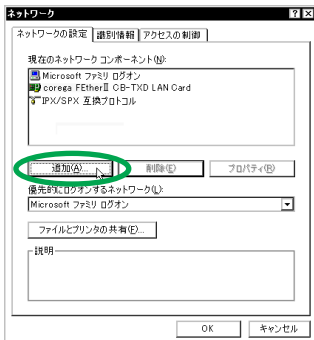


図 A.3.1-1 ネットワーク構成ファイルの追加

- 2 「インストールするネットワークコンポーネント」¹の一覧より、「クライアント」を選択し、「追加」をクリックします。

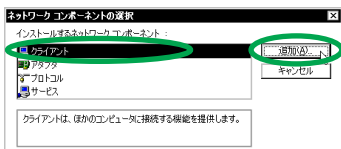


図 A.3.1-2 「ネットワーククライアント」の追加

- 3 「製造元」に「Microsoft」、「ネットワーククライアント」に「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、「OK」をクリックします。

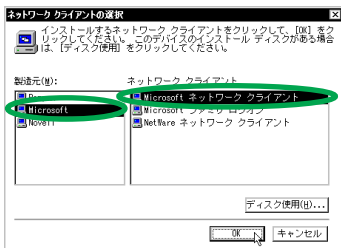


図 A.3.1-3 「Microsoft ネットワーククライアント」を追加

- 4 「OK」をクリックすると手順2の画面に戻ります。「A.1.1 「Microsoft ネットワーククライアント」、「NetBEUI」の確認」(p.73) で追加されていることを確認してください。

1. Windows 95 の場合は、「インストールするネットワークコンポーネント」が「インストールするネットワーク構成ファイル」という表示になります。

A.3.2 「NetBEUI」の追加方法

- 1 「スタート」メニューの「設定」、「コントロールパネル」、「ネットワーク」をダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで、「追加」をクリックしてください。



図 A.3.2-1 ネットワーク構成ファイルの追加

- 2 「インストールするネットワークコンポーネント」の一覧より、「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックします。

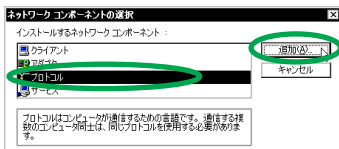


図 A.3.2-2 「ネットワークプロトコル」の追加

- 3 「製造元」に「Microsoft」、「プロトコル」に「NetBEUI」を選択し、「OK」をクリックします。

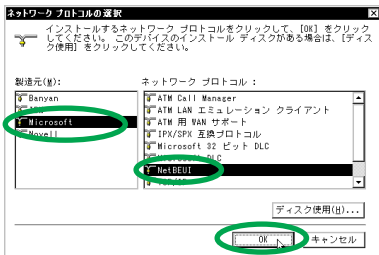


図 A.3.2-3 NetBEUI を追加

- 4 「OK」をクリックすると2の画面に戻ります。「A.1.1 「Microsoft ネットワーククライアント」、「NetBEUI」の確認」(p.73) で追加されていることを確認してください。

TCP/IP や他のプロトコルの設定については、ネットワーク設定に関する参考書を参照していただくか、システム管理者にご確認ください。

A.4 コンピューターのディスク共有設定

コンピューターのドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中の「C ドライブ」を共有するときの手順を例に説明します。

- 1 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「マイコンピュータ」ダイアログの「(C:)」ドライブアイコン上で右ボタンをクリックし、メニューを表示して「共有」を選択します。

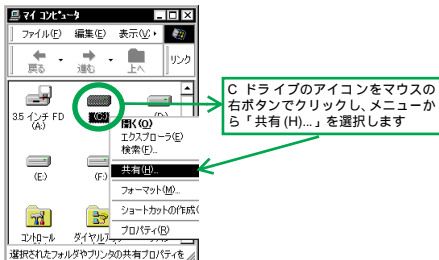


図 A.4-1 「C ドライブ」の共有

- 3 「共有」タブをクリックし、「共有する」をチェックします。
- 4 「共有名」、「アクセスの種類」、「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。

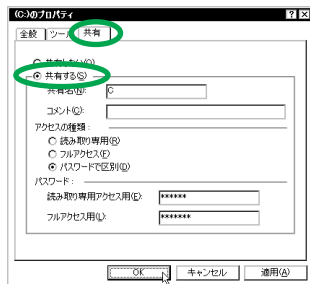


図 A.4-2 「共有」の設定

設定する項目の説明は、次の通りです。

- 共有しない：ドライブの共有を解除するときに選択します。
- 共有する：ドライブの共有を設定するときに選択します。
- 共有名：共有するドライブの名称を変更することが出来ます。
- コメント：共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。
(必ず入力する必要はありません)
- アクセスの種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
 - ・読み取り専用：共有するドライブを読み込み専用にします。
 - ・フルアクセス：共有するドライブに読み書きを許可します。
 - ・パスワードで区別：パスワードにより、読み書きを許可します。
- パスワード：「アクセスの種類」に対するパスワードです。
 - ・読み取り専用アクセス用：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
 - ・フルアクセス用：読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

5 C ドライブのアイコンが次の画面のようになります。



図 A.4-3 共有設定されたドライブの表示

A.5 他のコンピューターへの接続

以下の手順に従い、他のコンピューターに接続します。

- 1 Windows デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。接続されているコンピューターが表示されます。



図 A.5-1 「ネットワークコンピュータ」表示

- 2 表示されているコンピューターのアイコンから接続したいコンピューターをダブルクリックします。
- 3 共有設定で、「共有する」と設定されたドライブが表示されます。
- 4 上記 3 で表示されたドライブをダブルクリックすると、「共有する」と設定されている中身（ファイルやフォルダ）が表示され、アクセスが可能となります。



重要： タイミングによって接続したいコンピューターが表示されない事もあります。その際は、「ネットワークコンピュータ」を再表示、または「表示」メニューの「最新の情報に更新」を選択してください。

B 製品仕様

ハードウェア仕様

- PC インターフェース：PC Card Standard・Type 準拠（32-bit CardBus）
- サポート規格：IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX、IEEE802.3u Auto-negotiation

機械的仕様

- 外形：54(W)×104(D)×5(H) mm（専用ケース含まず）
ただし、突起部 12.8 mm
（PC カードソケット挿入部はType に適合）
- 重量：35g（専用ケース含まず）

電氣的仕様

- 動作電圧：DC +3.3V
- 消費電流：最大 100 mA
- 消費電力：最大 330 mW

環境条件

- 動作時：温度 0 ~ 40（PC カードの周囲温度）^{1/} 湿度 80% 以下（結露なきこと）
- 保管時：温度 -20 ~ 60 / 湿度 95% 以下（結露なきこと）

電気雑音の発生防止

- 取得承認：EMI 規格 VCCI クラス B

ネットワーク機能

- 転送速度：100Mbps または 10Mbps
- 通信モード：半二重または全二重

1. 本製品（PC カード）の周囲温度であり、コンピューターの周囲温度ではありません。

使用するハードウェア資源

- 割り込み (IRQ): 1 チャンネルを使用する。
- I/O アドレス: 連続する 256 バイトを使用する。

C ネットワークインターフェース

100BASE-TX/10BASE-T インターフェース (MDI) は、RJ-45 型と呼ばれるモジュラージャックが使用されています。

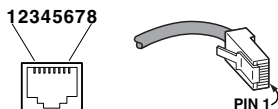


図 C-1 RJ-45 モジュラージャック、プラグ

ピン番号	信号 (MDIポート)
1	送信データ (+)
2	送信データ (-)
3	受信データ (+)
4	未使用
5	未使用
6	受信データ (-)
7	未使用
8	未使用

図 C-2 信号線名

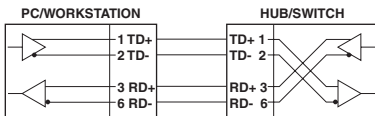


図 C-3 UTP ケーブル (ストレートタイプ)

D MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機器（アダプター）のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の（unique、ユニークな）アドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています（表記はすべて 16 進数）。

00	09	41	xx	xx	xx
ベンダー ID			通し番号		

- **ベンダー ID**

LAN ベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEE に申請することにより得られる識別番号です。

- **通し番号**

この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたものです。この通し番号と本製品の「シリアル番号ラベル」の番号に関連はありません。



MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

E 保証と修理について

保証について

本書に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するというものではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。本製品（ドライバディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅急便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後、約10日程度（弊社営業日数）を予定しております。
- 誠に申し訳ございませんが、直接来社されたのサポート依頼は受付けておりませんので、製品は必ず宅急便などでお送りください。

製品送付先

〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-19-20

(株) コレガ corega サポートセンター宛

F ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書の記入について」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268 10:00-12:00、13:00-17:00 月～金（祝・祭日を除く）

Fax: 045-476-6294

F.1 調査依頼書の記入について

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウェアとソフトウェア

- 本アダプター上に貼られたラベルに記入されているシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード(Rev)を調査依頼書に記入してください。

(例) 

- ご使用になっているソフトウェアの種類/バージョン(Ver.)を記入してください。これらは、ドライバディスクのラベル上に記入されています。
- 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合はすべてご記入ください。
- 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入ください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をプリントアウトしたものなどを添付してください。

- 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティーや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

システムリソースレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り、システムリソースレポート（お使いのパソコンの詳細情報を OS が自動作成するレポート）を出力の上、「調査依頼書」に添付いただきますようお願いいたします。システムリソースレポートを出力する手順は以下の通りです。

- 1 コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。
- 2 「印刷 ...」ボタンをクリックします。

- 3 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要」を選択してください。以後、画面の指示にしたがってください。

```
システムリソースレポート - ページ: 1
***** システムの概要 *****

Windows バージョン : 4.10.2222
コンピュータ名: Unknown
システムバスの種類: ISA
BIOS 名: Phoenix
BIOS の日付: 11/22/99
BIOS のバージョン: Phoenix NoteBIOS Version 4.05
コンピュータの種類: IBM PC/AT
プロセッサの製造元: GenuineIntel
CPU の種類: Intel(r) Celeron(tm) Processor
数値コプロセッサ: 存在します
登録オーナー: X X X X X X
登録会社: X X X X X X

***** IRQの概要 *****

IRQ の使用 :
00 - システムタイマー
01 - 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)
02 - プログラミング可能な割り込みコントローラ
03 - 通信ポート (COM2)
04 - 通信ポート (COM1)
05 - ES1878 Plug and Play AutoDrive
06 - 標準 フロッピー ディスク コントローラ
07 - プリンタポート (LPT1)
08 - システム CMOS/リアルタイムクロック
09 - PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
10 - Chipset Graphics Driver PV1.1 (DC10)
11 - Mouse Controller
12 - Mouse Controller
```

システムレポートの出力例 (Windows 98 Second Edition の例)

F.2 最新ドライバの入手方法

弊社は、改良のために予告なく、本製品のドライバのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバは、弊社のホームページから入手することができます。また、このホームページではFAQ、パソコンの動作検証リストなどの情報もご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

- 1 Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator などの Web ブラウザーを使用して、次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.corega.co.jp/>

- 2 「ダウンロード」 「各種ドライバ」をクリックしてください。

- 3 ご希望のドライバをクリックしてください。

F.3 「corega Net-News」のご案内

「corega Net-News」は、株式会社コレガがお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など耳よりな情報をお届けいたします。メール配信サービスをご希望のお客様は、corega ホームページでご登録ください。なお、メール配信サービスはどなたでもご登録いただけます。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 2002 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2002年 4月 Rev.A 初版

調査依頼書 (corega FEther II CB-TXD 1/2)

年 月 日

一般事項

1. 会社名 (個人名): フリガナ:
部署名: ご担当者:
ご連絡先住所: 〒
TEL: () FAX: ()
2. 購入先: 購入年月日:
購入先担当者: 購入先 TEL: ()

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン

製品名: corega FEther II CB-TXD



S/N _____ Rev ____

ドライブディスクのバージョン: Ver. _____ pl. _____

2. ご使用のコンピューター機種と併用している他メーカーの拡張アダプター (ボード)
コンピューターのメーカー名 / 機種
OS とバージョン
拡張アダプターのメーカー名 / 機種
3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、Windows NT など)
コンピューターのメーカー名 / 機種
OS とバージョン

お問い合わせ内容

別紙あり

別紙なし

設置中に起きている障害

設置後運用中に起きている障害

調査依頼書（corega FEther II CB-TXD 2/2）

年 月 日

ネットワーク構成

別紙あり

別紙なし

簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

製品保証規定

この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取扱説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

- 本製品本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。（ただし、本規定の他の条項に準じます。）
- 本体付属品（ドライブディスクなど）：3ヶ月間保証

保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、静電気、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

本製品に付属のドライバ・ソフトウェアが他社の提供するハードウェア、またはアプリケーション・ソフトウェアと共有できるという動作保証、および使用によるその他の損害についての保証は行いません。

本ハードウェアが他社の提供するソフトウェア、またはアプリケーション・ソフトウェアと共有できるという動作保証、および使用によるその他の損害についての保証は行いません。

修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

製品保証書は、日本国内のみで有効です。

製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名 corega FEther II CB-TXD

シリアル番号
(S/N)

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先
coregaサポートセンター
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20
TEL : 045-476-6268
受け付け時間 : 10:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00
月 ~ 金 (祝・祭日を除く)
FAX : 045-476-6294

販売店様印

本保証書にお買い上げ販売店の記名および押印が無い場合は、有償扱いとなりますのであらかじめご了承ください。
製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。